

昔がたり

小西信八

小西先生は、創業時代の東京女子高等師範学校附属幼稚園
第三代の監事として、我國幼稚園教育の基礎をかためられ
た方。當時の様子、先生の御事業のあとを伺ひに市外高田
町のお居住をお訪ねしました。ずっと遠い昔の事ですつか
り忘れてしまひましたが、お尋ね下されば思ひ出しばなし
をしませう」と、以下の貴重なお話をいただきました。

× × ×

私があひ幼稚園に居りましたのは明治十三年九月から十九年に盲啞學校に變る時まででしたよ。中博士が千葉師範にゐられた時、その下に呼んでもらつて、その後中さんは東京に變られたので、又も願ひしとつたら、幼稚園の方に監事の缺員があるからといふので呼んで貰つたですよ。關信三

さんが亡くなられた後でしたかな。あの頃が一等面白うござんした。子供と一緒によく遊びましてな。本校の生徒に保育法と植物を教へるだけで、受持時間が少うござんした。

この頃はまだ幼稚園の研究書がすくなくて、

「幼稚園記」 米人ダウエイ氏原著 關信三氏譯

「幼稚園」 文部省發行 神田孝平氏譯

この二冊の外に見るべきものがありません。後になつて、神戸に來てゐる婦人の書いた物、市橋虎之助氏のもので出ましたが。幼稚園記は譯し方はよいが分りにくい本でした。良くも悪くも幼稚園に關係ある本を集めることにして骨折りましたか

焼けてしまひましたね。そんな時だから私の講義には、何よりフレイベルの傳記がいゝと思つてそれをやりました。又、原書の口誦をしました。原書といつても前の二冊くらゐのもの。その後アメリカに留學した加藤錦さんが、アメリカの幼稚園を紹介したものの三冊を送つてくれました。

その時の保姆だつた加藤錦さんは、幼稚園研究のためにアメリカに留學されたが歸つて來られて高等師範部の英語の先生になつた。折角研究して貰つたのに残念な事でした。大正八年になくなられましたよ。

幼稚園の出來た當初の事を知つてゐられるのは豊田英雄さんひとりでせうな。その頃の幼稚園はぜいたくなものでしたよ。フレイベルのこしらへた幼稚園は貧乏の子だけを集めたのに、貧乏な親達が仕事に出かけるので子供をよく育てゝやらうといふのだつたのに、こちらでは金持ちの子が來

るようになった。金持ときめたわけではないが、小さい子の、送り迎へは貧乏人では出來ないから、自然とさうなつたのでせうな。

私のした仕事ですか。私くらゐ仕事をしなかつた監事はありませんよ。

私の來る前、十三年七月に保姆練習科が卒業すると、女子師範學校の生徒に實習させるために保姆科は廢止になつて、その女子師範の生徒が訓導となり保姆となりましたが、訓導は本官になるが、保姆は本官になれんので卒業生が保姆になるのをいやがります。一つの學校で教育された者に差別があるのはいけないと思つたので、官制を改めるよう文部省にお願ひしました。普通學務局は通過しましたが、専門學務局では保姆を本官にする必要はないといふのです。幼稚園はドイツ本國でさへ疑問とされてゐるぢやないか、フレイベルは社會主義者ぢやないか、といひますから私が抗議し

ました。フレノベルは幼時から子供に社會主義を宣傳してゐると、ドイツ政府は考へて幼稚園を禁止したが、間もなく政府は幼稚園はそんなものではないことを良解したけれども、政府の威信のために、過つた所を表すのをさけてゐるのだと書いて文部省に出しました。それで官制が改つて保母も訓導と同じ待遇になりました。

もとの唱歌は、古今や萬葉のような古い、意味の分らぬうたに、宮内省の雅樂部の伶人が節をつけて、妙なものをうたはせてた。それで、小學校にメイソンが來て、歌を教へるようになったので、うらやましくてたまらんから、學校へ頼んで幼稚園にも來て貰ふことにしました。メイソンは伊澤修二さんがアメリカで音樂研究の折、習つた人で、音樂學校が出来る時、日本に唱歌を擴めるためにとて呼んだ方です。そこで、もとからやつてゐた歌では一向分らぬから加藤錦さんに西洋歌を

翻譯して貰ひました。

「蝶々／＼菜の葉にとまれ」

の歌がさうですよ。その外にも澤山作つて貰ひました。歌の調子が活潑で、子供の調子だから子供はよろこびましてな、メイソンさんが來られるとあのお爺さんの周りに飛びついて行つたもんですよ。メイソンさんも亦幼稚園へ來るのがたのしみらしかつた。御自分は余り歌はないでバイオリンを弾いたり時にはピアノを弾く事もあつた。

幼稚園の用語をすつかり改めましたが、だいぶ不平の人もありましたな。幼稚園の言葉が漢字ではいかんと思ふ。西洋ではABCはお母さんが使ふ言葉だからよいが、織紙だの、圖畫だのと、日本のお母さんが使ふ言葉ではない。紙さき、紙たゝみ、畫き方といふ風にした方がよいと思ふて、やはらかい名に代へました。排板、排環、排箸などといつては子供には分りやしません。私はカナ

キチガヒと云はれますが、むづかしい漢字を學ぶために、吾々は何れだけ損をし間違ひを起こし、迷惑をするか知れないと思ふて明治五六年頃からカナの會を起しましたがそれについては大塚高師の、先日亡くなられた三宅さんには骨折つて貰ひました。

「豆のなぎは、外國幼稚園紹介の本によると四角いコルクにきりぎりで孔をあけ、木を細くけずつて用ふようになつてゐるが、あぶないから、豆をひやかしてひごで繋ぐようにしました。日本には竹といふ材料がある。明治三十一年に、アメリカへ行つた時、色紙やひごをお土産にしたら大變よろこんだ。西洋紙では摺む事は出来ない。今こんなもの輸出しとるか知らんが、あれをフレノベル館などが輸出すればいいと思ふ。

幼稚園の南庭に立派な花壇を作りましてな、池も掘り、温室も作つて冬でも花のあるようにしま

したよ。園舎の南側の壁にはわせてあつたのを庭に持ち出した藤棚は大變立派なもので、地方から出て參つた者は幼稚園の庭には驚いたものでした。メイソンさんが大變に藤棚をよろこび、珍らしがつて種を持つて歸りましたよ。

「婦人と子ども」の創刊は中村五六さんの時でしたか、大久保介壽さんの時でしたか、はつきり覚えてゐないが、雑誌を出す相談の時、私は「母と子ども」といふ名を持ち出した事がある。

× × × × ×

お年をうかゞへば、蜀山人より借りてと

七十七下よりよむも七十七

中よりよみしときもありしを

カードに書いて示された。大正十四年盲啞學校長を辭されて以來御静養の御身であるが、カナモジ、國字問題を話された時の御意氣は世の常の御老人には見られない。お話をうかゞつてきてはと氣づいた御門の表札「こにしのぶはち」を改めて、意味深く見直して歸りました。

(三月三十一日口述筆記きく子)